

参考 2

医道審議会医師分科会医師臨床研修部会報告書に対する意見

報告書骨子（素案）について以下の点で意見を述べさせていただきます。

1. 研修プログラムの改善：今後の対応について（7 ページ）

（1）現在のプログラムについて評価が困難であるから継続することが妥当という議論は賛成しかねます。多くの時間をついやしてヒアリングで現時点で多くの問題点ができてきたにもかかわらず、なんらの改善をしないのは極めて妥当性を欠き、その制度について改善のために日夜努力している多くの医療人に対しての説明責任が果たせないと考える。

（2）プログラムの柔軟性を要求している現場、とくに研修医はそのモチベーションをいかにして2年間確保するかということであり、必修科目の履修順についての問題ではない。いかに将来、医師として活躍するかということ意識しながら研修制度で学んでいくことは研修制度のコンセプトを揺るがすものではなく、研修期間で学んだことを将来の専門に活かしていくことでむしろ積極的にその意義をたかめていくと考えられる。このことから必修科の見直し、必修科をいつの時点で研修するか、将来の選択を考えている科をなるべく早期に研修を可能にすることなどの点を盛り込んで研修プログラムの多様化をめざし、研修医の能力を伸ばす研修制度への発展を促すようなものにしていただきたい。

（3）研修プログラムの検証について

今後、医師研修制度がわが国の医療を担う優秀な医師の育成に寄与し、かつ、医療レベルの向上に寄与しているかどうかは、研修医の獲得目標の達成度や研修医に対するアンケート調査のみでは到底検証できるものではない。研修プログラムの検討についての今後の対応について、いかにして研修制度の是非、その意義、有効性についてわが国の医療を指させる医師育成の面からの検証とその結果に基づく根本的な改革が必要であればそれを行うことをかならず盛り込むべきである。

（4）検証、改革の時期の明確化

この骨子の全体に通じていえることは、検討し、改善していくための手順が明記されていないばかりでなく、その検証し、改革していく時期がまったく明示されていないことであり、これは大変な問題である。優れた医師を育成するプログラムの改革は現在の問題となっている医療を改善していく極めて重要な項目のひとつであり、その動向は国民、医療界が等しく注目しているところである。説明責任を果たすためにも具体的に検証、改革をどのようなタイムスケジュールで行っていくかを明示すべきである。個人的にはこの1年以内に検討を加えて、プログラム改革についての具体的なプランとタイムスケジュールを盛り込んだロードマップを示すべきと考える。

2. 臨床研修病院の体制等の充実：今後の対応（13 ページ）

現時点での研修プログラム検証、改革案を受けての作業になるが、臨床研修病院の基準を大きく改訂すべきととかがえる。現時点で研修プログラムでは大学病院を中心とした高度医療を推進し、高度なチーム医療を行っている医療の現場を見ることの価値が低く評価され、**common diseases** の研修の必要性から、高度医療は経験しなくてもいいようなコンセプトで臨床研修病院の基準が設定されている。これによりもたらされることは、若い医師が困難な疾患をチーム医療の中で経験し、そのような疾患に立ち向かっていく高いモチベーションを持つ可能性を低くしている問題である。その結果、外科、脳外科、産婦人科などのリスクの高い診療科の専門を目指す医師が激減していることの原因にもなっている。これは今後のわが国の医療が難治疾患の治療をおこなう力を減じていくことにつながる。**Common diseases** をみて適切に判断する能力と並んで難治な疾患をきちんと診療するチャンス卒後 2 年という医師の教育にとってもっとも大切な時期に与えることは大変有意義と考える。このような観点から、臨床研修病院の単独型、管理型の病院は 600 床規模以上の病院が妥当であり、それとの連携病院として多くの病院がネットワークを構築して 2 年間の臨床研修が多様な疾患を適切な指導体制の下で行えるような抜本的な制度改革が必要である。これは臨床研修制度が始まってからの若い医師の選考の選択についての大きな変動を見ると早急に行うべきであり、時期を逸すると今後、日本の医療のレベル低下をもたらすことになると思う。